

農政産業観光委員会 県内調査活動状況

1 日 時 令和3年1月26日(火)

2 委員出席者(9名)

委員長 渡辺 淳也

副委員長 桐原 正仁

委員 望月 勝 早川 浩 永井 学 市川 正末
土橋 亨 小越 智子

3 調査先及び調査内容

(1)【昇仙峡・夢の松島】

○調査内容(主な質疑)

問) リバイバルプランの会議で問題点を洗い出して、昇仙峡地域活性化推進協議会をつくったというイメージでよいか。

答) そのとおりである。リバイバル会議でアンケート調査を実施した中で、課題を洗い出し、日本遺産認定を契機に設置した、昇仙峡地域活性化推進協議会において課題への対応策を検討している。

問) 今後、アンケート等に出てきた課題に対し、解決に向けて取り組んでいくと思うが、アンケート結果の中で、もう一回来たくなるといふ部分については、この令和3年度事業の中で網羅されていると思う。そのアンケートの中で、若者が余り訪れていないとあったが、何か若者に対するアピール対策は盛り込まれているのか。

答) 若者からは、一度訪れれば満足した感じになるという意見があった。それは、風景だけを見ているため、滞在時間を伸ばしたいとか、リピートしたいという気持ちなかなか生まれない。そのため、アクティビティに関する調査、研究をしていく。今後は、若い人たちを惹きつけるような対策をとっていきたいと考える。

問) 若者やファミリー層へのアプローチが非常に重要だと思う。キャラクターを出したり、奥の板敷溪谷を家族で歩いたり、隠れたいところがまだたくさんある。今回の事業とあわせて、いいものをPRしていくという意味で、県、甲府市、そして地元の観光協会が連携していくような取り組みは、何かあるか。

答) 令和3年度に日本遺産のホームページを作成しようと考えている。それから、若者や家族層については、SNS等を活用した情報収集等が主流になっているため、インフルエンサーを活用しながら、昇仙峡の魅力について発信していきたいと考えている。

問) 今、昇仙峡で問題や課題になっていることがあれば伺いたい。

答) ここ数年観光客の推移がどんどん落ちている。会長になって4年目、いろんなこと

をしてきた。春夏秋冬の景色をドローンで撮影してホームページにアップしたり、マウンテンバイク、テントサウナ、カヌー等を環境庁の補助金で購入した。若い人や滞在時間を増やすためにアクティビティを中心としていきたいと思っている。また、従来の昇仙峡は来て当たり前から、こちらからPRしていく考え方に変わってきている最中であり、その中で、やはり私たちの力だけでは難しいため、甲府市、山梨県という行政の力をかりながらどんどん進めていかないといけない。日本遺産も取れ、甲武信のユネスコエコパークも取れているので、そういうものをうまく活用しながら、情報発信をしていこうと考えている。

問) 昔は、馬車に乗って上へ登って、みんな楽しんでいた。あれもアクティビティの一つだったと思う。今後、馬車が復活する予定は全くないのか。

答) 一人やり始めたが、小さくてとても引ける馬じゃない。今、山梨交通やJTBが、グリーンモービル（電気自動車）の運用を考えてくれている。そういうものができると、違ってくると思う。

問) 下から覚円峰を見ながら登っていくには、雑木の整備が必要になる。一度訪れた人が、2回、3回といろいろな人を連れて来たいという魅力的な昇仙峡になってくれればと思う。今後も、ぜひ頑張ってください。

問) 参考までに、富士吉田市で、実際に町なかを5頭ぐらいの馬が馬車を引いて「ウーマーイツ」というのをやっている。いい馬がいるので、必要があれば紹介する。
話は変わって、この昇仙峡の中で、一番、写真映えするポイントはどこか。

答) 県営の駐車場から少しロープウエー側に登っていったトンネルの手前のところから見る覚円峰はすごくいい。そこに空中展望台をつくっていただければ、いいPRになると思う。

問) コロナ禍における対策として、例えばワーケーションとか、キャンプサウナなどを誘致するなど、そういった対策はどのようにやっているのか。

答) ワケーションについては、現在、当課でも観光地を中心に準備を進めている。それから、やまなし自然首都圏構想研究会という会議があり、その中で、二拠点居住に向けた取り組みとして、ワーケーションの検討を進めているところである。今後も昇仙峡等を含めて、こういった活用ができるのか継続的に検討をしていく。

問) 観光に来る前に、事前にバーチャルで見ることができたり、SDGsに対する取り組みやアプローチが弱いと思っているので、ぜひ取り組んでいただきたい。

もう一点、昇仙峡のサブネームみたいなものはないのか。若い人たちから、グラウンドキャニオンのような、山梨キャニオン、甲府キャニオンといったものがあればよいという意見があるが、どのように考えているか。

答) 今後、地元の方々と協議していく中で、そういったイメージを膨らませるようなタグライン、キャッチフレーズを検討していきたいと思う。



※ 甲府市北部悠遊館にて概要説明を受け、質疑を行った後、施設内の視察を行った。

(2) 【株式会社テージーケー 韮崎工場】

○調査内容（主な質疑）

問) 山梨県の産業集積促進助成金のように、ほかの県にもいろんな制度がある中で、山梨県を選んだ理由、経済支援の面で、ほかの県と比べてどこがよかったのか。なぜ、韮崎なのか。

答) 産業集積促進助成金は、近隣県に比べても決して劣らない内容であったそれから、やはり土地の岩盤の強さや、景観のすばらしさ。このすばらしい環境で最先端のものづくりをしているという、コンセプトに合う場所であったことが大きな理由である。

問) 山梨県にもっとこうしてもらいたいという要望はあるか。

答) 山梨県や韮崎市が、こういった産業を育てたいという思いはいろいろとあると思う。たまたま私どもがここに進出してきたということで、この辺が最先端のものづくりのメッカとなる一助になればと思っている。お客様はほとんど海外であるため、この山梨県、もしくはこの韮崎市に、お客様や、サプライヤーがいるわけではないが、この場所が産業のメッカとなるよう、我々の産業を集積できればいいと思っている。我々は、近くの別の土地も取得しており、そちらに集積する際には、コミュニケーションをとりながら御協力いただければありがたいと思っている。



※ 株式会社テージーケー 韮崎工場にて概要説明を受け、質疑を行った後、施設内の視察を行った。